

奈良商工会議所

中期行動計画

(2026～2028 年度)

地域ので未来を創る

— 伴走から自走へ / 周遊から滞在へ / 単独から共創へ —

令和 8 年 (2026 年) 4 月

奈良商工会議所

<https://www.nara-cci.or.jp/>

I. 計画策定の趣旨

奈良県経済は長期的な低成長に加え、コロナ禍・物価高・円安・人手不足など、構造的課題に直面している。こうした中で中小企業が持続的に発展していくためには、「変化を恐れず挑戦する企業の育成」と、「地域をつなぐ商工会議所のハブ機能の強化」が不可欠である。

令和6年4月、大和西大寺駅前への新会館移転を契機に、企業・行政・大学・金融機関などとのネットワークを活かしながら「伴走から自走へ」「周遊から滞在へ」「単独から共創へ」^(※)を合言葉に、地域の力で未来を創る「持続可能な地域経済」の実現に向けて取り組む。

^(※)「伴走から自走へ」「周遊から滞在へ」「単独から共創へ」は、企業の自立支援、観光における県内周遊をより深めて滞在体験へと発展させる取組、そして産学官民が連携して価値を共創するという、本計画の方向性を示している。

II. 将来ビジョン

地域ので未来を創る 「伴走から自走へ」「周遊から滞在へ」「単独から共創へ」

～歴史と共創から生まれる、持続可能な地域経済の実現～

奈良の強みである歴史・文化・人材・観光資源を活かし、企業・行政・地域が手を携え、互いの強みを持ち寄って新たな価値を生み出す「共創」の精神のもと、共に成長し続ける地域経済のハブとして、『地域から信頼され、必要とされ続ける経済団体』を目指す。

III. 基本方針

1. 政策提言とインフラ整備推進による地域発展の実現
2. 中小企業・小規模事業者の持続的成長と再構築支援
3. DX・GX・人材育成による地域競争力の向上
4. 観光・文化・地域資源を活かした地域価値の創出
5. 行政・大学・金融機関等との広域共創による地域課題の解決
6. 商工会議所の機能強化と信頼性の向上

IV. 重点戦略と主な取組

① 政策提言とインフラ整備推進による地域発展の実現

<主な取組内容>

- 京奈和自動車道の早期全線開通など道路ネットワーク整備を推進
- リニア中央新幹線奈良駅位置の早期確定、奈良駅周辺整備などの継続要望
- 行政・経済団体との意見交換会の定期開催と政策提言の体系的推進
- 中小企業対策や税制改正に関する要望の継続実施

<2028年度の到達イメージ>

- 商工会議所の提言が行政施策に反映され、道路や観光基盤の整備が着実に進展。
- 交通利便性の向上を通じて地域の発展に貢献し、商工会議所は「政策提言型経済団体」としての信頼を確立する。

KGI（重要目標達成指標）

- ・ 重点要望案件（京奈和自動車道・リニア中央新幹線以外）：3件以上

② 中小企業・小規模事業者の持続的成長と再構築支援

（「伴走から自走へ」支援事業）

<主な取組内容>

- 経営発達支援計画に基づき、経営分析から計画策定、実施支援、フォローアップまで一貫した支援を展開
- 創業塾の開催やスタートアップ支援を通じて、創業後の定着と成長を支援
- 事業承継・引継ぎ支援センターと連携し、経営者交代を見据えた継続的なフォローアップを実施
- テストマーケティング、新商品開発、展示会出展、ITを活用した販路開拓や海外展開支援など、多様な販路開拓支援を推進

<2028 年度の到達イメージ>

- 地域企業が自社の強みや課題を把握し、自立的に経営改善に取り組む体制が定着。
- 創業や事業承継が円滑に進み、地域を支える新たな担い手が育つ環境が整う。
- 商工会議所は、中小企業・小規模事業者にも最も信頼される伴走支援機関としての地位を確立する。

KGI（重要目標達成指標）

- ・ 当所の伴走支援により、経営改善を確認できた事業者数：50 社以上
- ・ 創業塾受講者および創業相談者への当所の伴走支援により、事業立上げに至った事業者数：50 社以上

③ DX・GX・人材育成による地域競争力の向上

（「伴走から自走へ」支援事業）

<主な取組内容>

- － 中小企業のデジタル化・業務効率化・生成 AI 活用を支援し、実践的なセミナーや個別相談を実施
- － 「奈良 SDGs 登録制度」や優良事例の発信を通じて、SDGs 経営の普及と実践支援を推進
- － GX（脱炭素・省エネ・再エネ導入）に関する情報提供や関係機関との連携支援を実施
- － 行政・大学・企業との連携により、次世代人材の育成とスキルアップの機会を拡充

<2028 年度の到達イメージ>

- 中小企業・小規模事業者のデジタル化が進み、業務効率と生産性が向上。
- 環境・社会に配慮した経営が広がり、地域全体に持続可能な経営風土が醸成される。
- 生成 AI や IT を活用できる人材層が拡大し、地域の競争力を支える人材育成基盤が整う。

KGI（重要目標達成指標）

- ・ 当所の伴走支援により、DX・GX の取組を行い、業務改善を確認できた事業者数：20 社以上

④ 観光・文化・地域資源を活かした地域価値の創出

（「周遊から滞在へ」支援事業）

<主な取組内容>

- 「なら Slow&Loop」による周遊・滞在型観光の推進
- 「奈良まほろばソムリエ検定」の継続実施による奈良の魅力発信力の向上
- 「奈良 SDGs 学び旅」への協力と関係団体との連携強化
- 観光 DX（デジタルスタンプラリー・多言語案内等）の推進
- 伝統工芸・食文化・特産品のブランディングと EC 販路拡大

<2028 年度の到達イメージ>

- 「なら Slow&Loop」をはじめとする取組が定着し、滞在型・体験型観光による地域経済への波及効果が拡大。
- 「奈良まほろばソムリエ検定」を通じて奈良の魅力発信と人材育成が進み、文化・観光・産業が連携し、共創による地域価値創出の好循環が広がる。

KGI（重要目標達成指標）

・ 当所関与による観光・文化分野の産学官民連携事業（新展開・関連事業）：10 件以上

⑤ 行政・大学・民間機関等との広域共創による地域課題の解決

（「単独から共創へ」支援事業）

<主な取組内容>

- 行政、大学、金融機関、関係団体等との連携による産学官民の協働を促進
- 行政との協働による地域共創事業や課題解決型プロジェクトの展開
- 観光・人材育成・産業など幅広い分野での連携体制の構築
- 県内に本店を有する金融機関等との連携事業の推進
- 県内商工会議所・商工会との情報共有および連携の強化

<2028年度の到達イメージ>

- 商工会議所が地域共創の中核として機能し、行政・大学・企業など多様な主体との協働が定着。
- 新たな事業創出や人材交流が生まれ、商工会議所が地域共創のハブとして機能し、奈良発の共創モデルが県域を越えて広がる。

KGI（重要目標達成指標）

- ・他団体等との連携による地域課題解決型事業：3件以上

⑥ 商工会議所の機能強化と信頼性の向上

<主な取組内容>

- － 新会館を拠点としたワンストップ支援体制の構築
- － 会員ポータル・SNS・LINE 配信によるデジタル情報発信の強化
- － 経営指導員や若手職員の研修参加を促進し、スキルアップを推進
- － 事務局のデジタル化・ペーパーレス化の推進による業務効率化
- － 会員満足度の向上と組織力強化により、安定した会員基盤を形成
- － 県内4商工会議所との情報共有と連携を推進

<2028年度の到達イメージ>

- 新会館が地域経済と交流の拠点として定着。
- デジタル化と人材力の向上により、商工会議所事務局の運営が一層迅速かつ柔軟に進化。
- 安定した会員基盤を確立し、3,000 会員体制の実現を目指し、持続的な組織運営を推進。
- 商工会議所が、『地域から信頼され、必要とされ続ける経済団体』として確固たる地位を築く。

KGI（重要目標達成指標）

- ・会員数：3,000 事業所

V. 計画の推進体制

1. 統括および管理体制

会頭は、副会頭と連携を図りながら、計画全体の方向性と推進方針を統括する。専務理事・事務局長が実務面の総括を担い、計画全体の進行管理と推進体制の運営を担う。

中小企業振興部長は、経営支援、創業支援、DX・GX推進、人材育成、情報発信等を統括し、総務部長は、会員サービス、組織運営、会議所運営に関わる広報や渉外、財務・庶務等を統括する。両部が緊密に連携し、組織一体となって計画の着実な推進を図る。

2. 事業推進体制

事務局職員が連携し、各事業を実施する。4つの常設委員会および9つの部会を中心に検討・意見交換を行い、事業の方向性を共有する。必要に応じて、テーマ別の検討委員会等を設置するなど、柔軟な体制で対応する。また、職員は常に「変革と挑戦」の姿勢を持って職務に臨み、創意工夫により事業の質的向上と組織の持続的成長を図る。

3. 連携・協働体制

奈良県、奈良市、大学、県内金融機関、観光関係団体、および関係経済団体・支援機関等と連携し、産学官民の共創による地域課題の解決を図る。

4. 進行管理および評価

四半期ごとに事務局で進捗状況を共有し、必要に応じて対応方針を検討する。年1回「経営発達支援計画事業評価委員会」において成果を検証し、その結果を常議員会および議員総会に報告のうえ、次年度計画に反映する。

VI. 今後の展望

奈良商工会議所は、長年培ってきた信頼と地域ネットワークを基盤に、新会館を拠点とした「地域経済のハブ」としての機能を一層発揮していく。

中小企業の成長支援、人材育成、観光振興、政策提言など多角的な取組を通じ、「地域の力で未来を創る」というビジョンの実現を着実に進める。

常に「変革と挑戦」の意識を持ち、時代の変化を的確に捉えながら新たな価値創造に取り組むことで、奈良商工会議所は、『地域から信頼され、必要とされ続ける経済団体』としての使命を果たしていく。



『地域ので未来を創る』

奈良商工会議所は、持続可能な地域経済の実現に向け、確かな歩みを続けます。

<https://www.nara-cci.or.jp/>

